

# とっとり県老連だより

## 第26号

■会員数 45,849人  
 ■クラブ数 912クラブ  
 平成22年4月現在  
 ■鳥取県老人クラブ  
 連合会ホームページ  
<http://www.fuumon.sakura.ne.jp/>



### 健康ウォーキング

鳥取市  
気高支部老連  
八頭町老連

“いい汗がいた～”

境港市老連

100歳 まだまだ  
元気です!

健康づくり推進員  
さんと一緒に。

境港市老連

“元気ハツラツ”

## 笑顔で一緒に

鳥取県老人クラブ連合会

会長 高 澄子

本年も旧年に倍し、健康で意義ある活動に取り組みたく思いますので、よろしくお願い申し上げます。

老人クラブの活動には、生活を豊かにする楽しい活動と、地域を豊かにする社会活動があり、私達の生活にかかわるもので、やり甲斐のある活動だと思っています。「やらされる」と思えば腹の立つこともあるでしょうが、『高齢者同志の課題かも』と、皆と一緒に世間話でもしながら、明るく行動する事は、決して自分の損にはならないと思うのです。

『子供叱るな来た道だ。年寄笑うな行く道だ』と昔の人は言いましました。一年一年と短くなる行く道ですが、同じ行くなら、皆と一緒にほほえんで楽しく歩みたいものです。

### 平成23年度 県老連目標

#### 魅力あるクラブ活動へ

全国及び市町村老人クラブ連合会との連携・協調のもとに取り組む。

#### 1 魅力あるクラブづくりと加入促進

- (1) 加入促進と若手会員の組織化
- (2) 老人クラブの愛称設定
- (3) 全国三大運動、「老人の日・老人福祉週間」(9月15日～21日)の運動推進

#### 2 単位クラブ活動の活性化と市町村老連の充実・強化

- (1) 老人クラブ地区別研修会(地域支え合い事業)の開催
- (2) 市町村老連リーダーセミナーの開催
- (3) 市町村老連女性リーダー研修会の開催
- (4) 市町村老連若手リーダー研修会の開催

#### 3 相互に支えあう健康づくり・友愛活動の推進・強化

- (1) 「健康ウォーキング」の実践と普及(モデル市町村)
- (2) 「孤立を防ぐ友愛活動」の強化

### 県老連役員選任

任期満了に伴う県老連役員  
の選任が行われました。

選任された役員は次のとおりです。(任期二年・平成二十四年五月二十八日迄)

《理事》十一人	会 長	高 澄子
	副会長	前田 豊
		岩本 勝明
		武良 敬喜
		小林 裕幸
常務理事		今岡 祐一
理 事		日下部武志
		北野 昇
		宇田川 満
		相見 寿子
		門脇 陽子
《監事》二人		
監 事		野田 誠一
		足立 豊

# 健康

## ウォーキング

### で今日も笑顔



老人クラブ

元気で生きがいのある生活をおくるためには、自分の体力や健康状態に合わせた運動の習慣を身につけ、体力の保持につとめることが必要です。

#### 「健康ウォーキング」って？

いつまでも自分の足で歩けるよう、健康づくりを目的に、良い姿勢を意識して元気に歩くのが「健康ウォーキング」です。私たちは日ごろ無意識に歩いていますが、姿勢や歩き方を意識することで運動になります。健康ウォーキングは、いつでも、どこでも、だれとでも手軽にできる健康づくりです。運動を楽しく続けることで、からだも心も元気になります。

一日一回外に出て、仲間をつくりみんなと歩いてみませんか。

平成22年度は、次の五市町で取り組んでいただきました。

鳥取市気高町支部老連・八頭町老連・倉吉市老連・米子市老連・境港市老連の皆さんです。その中の境港市老連の活動をご紹介します。

## 若手委員会が取り組んだ健康ウォーキング

境港市老連

若手委員長 門脇 眞澄

九月二十九日、県老連・境港市老連主催の「第一回健康ウォーキング」を実施しました。

「健康ウォーキング」は、生活の中の運動習慣により、自分の体力を維持・改善し、寝たきりゼロを目指す活動として、今年度から新たに取り組むことになったものです。

#### 安全第一の企画

境港市老連では、「第一回現地学習健康ウォーキング」を、四月に発足したばかりの私達若手委員会で、企画・実施することになりました。



元気よく“いざ出発”

そこで、七月九日に第二回若手

委員会を開催し、

①実施日を九月二十九日とし、

小雨決行とする

②場所は環境に恵まれ車の通行量も少なく、安全であることから、境港市西南端の竜ヶ山公園を中心とした約二・三千口のコースとする

③八月中に参加者の募集を行い、九月十日頃までにとりまとめを行う。こと等を、決定しました。

七月三十日に開催した第三回委員会では、会場及びコースの下見を行ってから、集合場所や本部席の場所を決め、途中リタイア者が出る場所を想定して、連絡・搬送のための伴走車も準備することにしました。

参加者の概数を把握できた九月六日に第四回委員会を開催し、準備する物、役割分担、行事保険への加入、健康指導員・保健師などの派遣等について検討しました。役割分担については若手委員のみでは不足するため、女性委員の応援も求めました。

#### 無理なく楽しく参加

九月二十九日、当初は五十名集まるか否か、懸念されていた参加者は百十二名（受付されていない人もあり、実際にはもっと多かったです）で、役員一同安堵いたしました。

市老連・武良会長及び県老連・村田事務局長の挨拶の後、県老連健



“楽しくウォーキング中”

康づくり推進員の方の指導により、準備体操を行ってから、体力に応じ三班に分かれて出発しました。「ただ今、健康ウォーキング実施中」と書かれたのぼりを先頭に、竜ヶ山公園の緑、夕日ヶ丘団地の落着いた町並み、中海干拓地・承水路沿いの癒しの小道、市民スポーツ広場などの風景と会話を楽しみながら、思い思いの速さで歩き、一人の脱落者もなく、全員無事に出発点まで帰り着きました。この模様は、中海テレビの夕方のニュースで放映されたほか日本海新聞及び山陰中央新報にも掲載されました。後日開催いたしました反省会では、参加された皆さんから「景色も良かったし、とても楽しかった」との言葉をいただき、企画は大成功だったと自我自賛したところで、ご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

# 「若手委員会」を設置

県老連 若手委員会  
委員長 小矢野 馨



県老連では、平成21年3月から若手委員会の組織づくりを検討してまいりました。

平成22年4月に正式に、若手委員会を設置しました。

若手委員会では、若手会員の加入促進、若手リーダーの組織化支援、若手リーダーの養成のための研修会などの事業を実施します。また、クラブの様々な情報を地域に発信することを主な活動の柱としています。

今年度の主な活動を紹介します。

全国的に老人クラブを「愛称」で呼ぶ、老人クラブ連合会が増えています。

鳥取県老連も、高齢者が増える一方で、老人クラブの会員数が減少し、組織自体が、今、転機を迎えています。老人クラブのイメージアップと、若手高齢者の加入促進を合言葉に、皆さまに愛される老人クラブを目指し、老人クラブ会員及び県民を対象に「愛称」を募集しました。決まりましたら、皆さまに公表します。

## ☆平成22年度市町村老連若手リーダー研修会の開催

県内の市町村老連で活動する若手高齢者132人が参加して、若手会員の参画によるクラブ活動の活性化を目的とした研修会を倉吉市で開催しました。

最初に、鳥取市若葉台地区自治会副会長 福井正樹氏に「これからの老人クラブのあり方」地域づくりはジジ・ババの力で」と題して、講演をいただきました。その中で、①これからは地域で自分たちの生活を守る・作る時代。②老後を楽しく過ごすためには：達成感や繋がり感が大切。③魅力ある活動・組織づくりが大切。と話され最後に、これからの老人クラブのあり方が地域を変えるとまとめられた。

また、すでに活動を進めている境港市老連・倉吉市老連の事例発表を行い、疑問視する意見もありますが、まだまだ取り組みは始まったばかりであり、今後ますます若手の力が広がっていくよう期待します。

## ☆市町村老連も若手委員会を設置して活性化を図る

若手リーダーの養成は老人クラブの次代を担うリーダー養成としても大切です。

各市町村老連においても組織化し、それぞれの実情にあった活動や取り組みを進めていただきたいと思います。

## 地区別研修会から

新たな支え合いについて学び、日々の実践に活かしていくことを目的に、県内3地区で開催しました。パネリストとして発表いただきましたお一人を紹介します。

## 「傾聴は高齢者同士の支え合い」

よなご傾聴しあわせの会

代表 岡田 浩氏



話を聴くだけでボランティアになる傾聴ボランティアをご存知ですか。これは話し相手がいない、孤独で寂しい、悩みをかかえて不安だ。そんな方の気持ちに寄り添って真心もってお話を聴くボランティアのことです。

今の世の中、高齢者は特に話しをする機会に恵まれず、話し相手がなく寂しさに思い悩み、次第に元気を失くしていきます。

この現状を放置すればこれらの人達は要支援、要介護へと押しやられてしまうのは自明の理です。人間は本来人の話しを聞くより

も自分が話しをするのが好きだと言われています。話すことで得られる満足感は、聞くときの何倍も大きいと言われているのです。

話しを聴いてもらえないと悲しく情けない気分になるものです。高齢者の場合は尚更です。生きる気力まで失くしてしまいます。話しを懸命に聴いてもらえば心が軽くなり、自分を受け入れてもらえたという気持ちが、生きていてよかったとの安心感につながります。更に、聴き手自身も相手の喜びにふれて、大きな喜びと元気と学びまでもが得られるのです。

傾聴ボランティアは、話しをする人も聴く人も共に喜びと元気を頂くのです。この傾聴活動は高齢者同士の支え合いです。お互いが元気を取り戻し、社会の福祉に貢献できる有意義な活動なのです。いまこそ老人クラブが一体となつて、取り組まなければならない緊急の課題といえるのではないのでしょうか。

傾聴は、一般の日常会話とは異なります。一定の講習が必要です。現在この講習を受けるには東京へ行かなければなりません。これでは、折角の熱い志も消えてしまいます。

身近な鳥取市で米子市、倉吉市で、養成講座の開催が熱望されます。ぜひ皆様のご理解をお願い申し上げます。

# 東から西から

## 魅力あるクラブと加入促進

鳥取市老連

遷喬地区 川木 勢逸

私達遷喬地区公民館は、自治連社福協、同推協、防犯協、自治防災協、街づくり推進協、体育協、健推協、民児協、青小協、交安協会推協、高齢協と、十三の組織で構成されています。

老人クラブ高齢協は、睦会、明大会、日の出会の三単老で、男性26人、女性75人、平均年齢77才の会員制です。

年度当初の総会（四月）で、役員会、研修旅行、奉仕活動、地区の研修会等への参加、市老連主催の行事などの諸行事を決めます。また、隔年毎に運動会と芸能大会を行っており、一昨年の運動会は具合悪く不参加で、今年は何んとしても参加したいと思っています。

奉仕活動は、学校周辺や公民館庭園の剪定、草刈を小学生と協同で、又市街地に出て、袋川右岸桜土手の河川敷、弥生橋から鹿野橋までの八百メートルの間の不燃物、

可燃物等の芥の収集作業を行います。足腰の丈夫な人三十数人が参加し、終了後、同推協、交安協等に依る研修会があり、続いて昼食懇談となり、話に花が咲きます。会員が最も楽しみにしているのが研修旅行です。

市の社福所有の寿号バスを利用すると、定員37人、使用時間が9時〜16時迄の制限があり近距離に限定されるため、少し遠く迄旅行を願う団体は民間のバスを使用することとなります。この場合には



“遷喬地区の皆さん”

10万円を限度として、1/2補助する制度があります。この研修の行先に役員は心を砕きます。食事が、温泉か、景勝地かと、三点揃うのが一番ですが、金がかかることとなり、その場合には、個人負担60%で、40%は高齢協と単老で負担することとなります。

29回目の研修旅行は、22年11月10日に奥津溪谷と温泉湯宿西に向いました。平均年齢77才、泣き笑いの人生の集団35人が、修学旅行しながらの気分、車内は皆さんの顔が、生き生きとし美しく、艶やかに見える一日でした。

奥津溪谷は、観光客が多く、バスの駐車する場所がなく、やむ無く超スローで溪谷を通過することとなりました。バス内は景観をみようと総立ちで、真つ赤な紅葉の中、「綺麗だったな」、「なんて美しい景色だ」、「初めて見る」と感動の渦でした。

ご馳走も美味しく、本当に楽しい一日で、「又、連れてつて」と多くの声が聞かれました。水面に投げた小石が波紋を広げるように、この喜びを会員外の友に伝えて、一緒に行こうと、誘って下さいと願っています。

## 「老人クラブ」の名称について

琴浦町老連

会長 北野 昇

昨年9月、日本海新聞に「転機を迎えた老人クラブ」と題した報道がありました。これは高齢者が増える一方であるのに係わらず老人クラブ会員数が減少しているという記事でした。その要因の一つが、「老人クラブ」の名称が加入者減の要因との内容でした。

琴浦町においてもそのような現状は否定できません。近年長寿社会となつて「老人」と尊称されていた年齢層が、後期高齢者と呼ばれる75歳以上が変わつてきたのでしょうか。60歳代、70歳前半の人には、老人クラブの名称が敬遠されていると思います。

そうであるならば、現社会に見合つた名称に改名して、健康で明るい元気な高齢者の組織にイメージチェンジする必要があると思います。

元気で地域に根ざした健康的な長寿社会を築く為、「仲間づくり」「社会奉仕」等の活動展開しながら、行政が取組んでいる介護予防、認知症防止対策にも繋がるクラブ活動を推進していかねばなりません。このように老人クラブは地域



気持ちを一つにして“それ”

の高齢者のための大きな目的と役割を持った自主的な組織です。いずれ長寿高齢化社会での長い人生を過ごしていかなければならない生涯であるならば、60歳代になれば高齢者同士の組織にも気軽に参加し、色々な活動を通じて「仲間づくり」「趣味づくり」等の「生きがいづくり」をし、「終の棲家」として自分の居場所を作っておきたいものです。

琴浦町では、昨年9月開催した全町単位クラブ会長会において、改名を提案をして、そこで改名案として連合会を、「琴浦町高齢者クラブ連合会」にして、「老人」という文字を「高齢者」に替えたかどうかということでした。



“90人も集まった高齢者の集い”

平成22年度の総会において決議される予定です。他に相応しい名称案があれば会員はもちろん、一般町民の方からのご意見や応募も広報紙にて周知し、お願いしています。

### 昔乙女合唱団

伯耆町老連

会長 瀬山正八郎

伯耆町老人クラブの現状と、ユニークな活動の一端を紹介したいと思います。現在、伯耆町の単位クラブ数は四十四クラブ。会員数は二、〇三三人。加入率は対象人口の四十二・八%。県下では加入者の割合の高い方ですが、

会員数は年々減少しています。

これは大山山麓に位置している溝口地区の高齢化の問題があります。山懐に抱かれた集落は限界集落化して、高齢者がクラブ活動に堪えられず、単位クラブそのものの維持が難しくなっている現状があります。このような状況を改善するため、昨年来若手委員会設立準備委員会を組織し、立ち上げのための検討を重ね、二十三年度から発足する予定であります。組織化された若手委員会の活動が軌道に乗れば、クラブの活性化、加入促進に寄与してくれるものと期待しています。

ところで、岸本地区の単位クラブ、こしき友の会のサークル活動「昔乙女合唱団」を紹介しましょう。

この合唱団は指揮者とピアノ伴奏者を除いて、六十代から八十代の会員二十五名で構成され、平均年齢は七十七歳です。近年この合唱団の年齢を感じさせない、若々しいハーモニーが好感され、各地の音楽祭、合唱フェスティバル等から出演要請があり、参加しています。なかでも介護施設、福祉施設からの公演依頼が多く、年間十回近くの慰問公演を行っています。これらの施設では昔懐かしい童謡や、歌謡曲を主に歌っていますが、

これらの歌には回想による記憶の刺激効果があって、一緒に歌い涙を流して喜ぶ入所者も見かけ、気持ちの落ち着き、情緒の安定が得られ、施設から感謝されています。又、合唱には腹式呼吸と発声による身体機能の維持効果があり、メンバー自身の健康と若さの秘訣となっています。「昔乙女合唱団」は明るい歌声とパワーを地域に発信し、老人クラブ活動を地域に広める役割を担っています。



♪ 昔乙女合唱団 ♪



# 高齢者の安心・安全を守る 生活モニター活動

(生活モニターは女性委員会の活動です)

## 生活モニター活動とは

高齢者に関わるさまざまな物事を調査し、その結果を活かした取り組みを通じて、高齢者の生活の向上・改善をめざす活動です。老人クラブ女性委員会は、毎年全国共通テーマを定めて取り組んでいます。

平成19年度からは、調査結果を活かした実践活動が重視されるようになり、取り組み期間も二年に延長されました。また新たに、地域課題の調査も始まりました。

## 平成22年度の取り組み

①市町村老連は実践を!



(結果を活かして) (取り組みを!!)

②県老連は地域課題(ひとり暮らしの高齢者の生活)の調査を実施。

(対象 老人クラブ会員)

## (実践事例)

### 「悪質訪問販売撃退法」

北栄町東園浜老人クラブ  
会長 田中 陽子

(北栄町老連女性部長) 悪質商法に引っかかるから日頃から話し合っている。生活センターから資料を入手し、皆で古いウチワに貼り作成。全員に配布した。

玄関に置き、イザ!という時活用。悪質訪問販売に来た時には、この「ウチワ」をちらつかせ撃退。倉吉警察署の電話番号も大きく書いてある。場合によっては「これを見よ!」とするのも一つの方法。

(女性リーダー研修会発表事例)



## (地域課題)

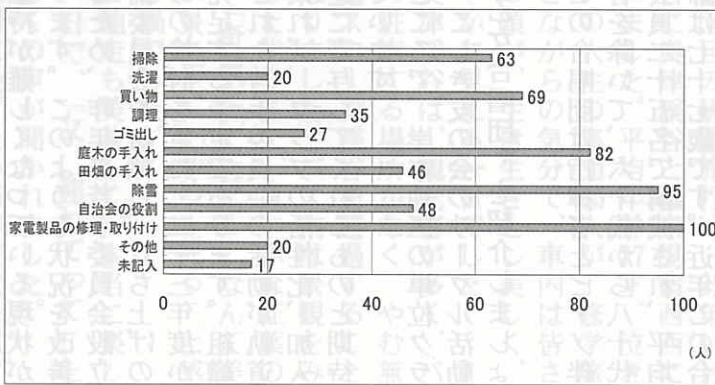
「ひとり暮らしの高齢者の生活」

(調査協力者) 226人

性別	男性	20%
	女性	80%
年齢別 (%)	60歳代	7
	70歳代	46
	80歳代	42
	90~100歳代	3
	無回答	2

## ◆モニター結果(一部紹介)

●ひとり暮らしの生活の中で負担に感じること(※複数回答あり)



◎「ひとり暮らしを続けていく上で地域住民へお願いしたいこと」

に寄せられた百十一人の声。大まかに三つに分類されました。

①一番多かったのは、男女を問わずいつでも、誰でも、年が違つ

ても「声をかけて欲しい」です。②次いで日常生活の中で、力のいる事や、移動などの手助けです。除雪、重いゴミ出し、買物、庭木の手入れ、家電製品の修理等

③町内会(自治会)への要望

◆報告書は、近く各市町村老連へお届けします。仲間の切実な声に応えるために、皆で話し合い知恵を出し合おうではありませんか。

## 平成22年度市町村老連女性リーダー研修会

三会場に四三八人参加

◎三地区開催の二年目。研修の初参加者は、この二年間で約四百人。

●NPO法人等で活躍しておられる女性の講演は、地域づくりの中で、高齢者への期待があり、仲間づくりのヒントをもらいました。

◎活動発表は三地区とも幅広い分野で活発に行われました。(健康づくり・友愛訪問・サロン活動・子どもとの交流・奉仕活動等)

◎今後の活動に役立つものとして「活動発表」が最も評価が高く、他市町の活動に学びながら、自らの活動を、より豊かに展開することが期待されます。

(鳥取県老連女性委員会)

# 県老連は市町村老連への 独自の助成制度を創りました

## 老人クラブ活動活性化助成事業

平成二十二年十月一日現在の鳥取県年齢別推計人口が公表され、前年と比較し、県人口が三、三七

八人減となる中、六十五歳以上の高齢者人口は七二六人増加し、高齢化率は二六・三%と〇・二ポイント上昇しました。

本県の高齢化率は、全国に先駆けてすすんでおり、人口が減少していくこともあり、今後とも上昇していく見込みです。

### ① 老人クラブの現状

少子高齢化の中、生きがいづくりやボランティア活動、安否確認や健康づくりなど地域で活動する老人クラブの存在意義は、今後ますます大きくなっていきます。

しかしながら、高齢者人口は増加するものの、老人クラブ数や会員数は年々減少してきております。

### 成制度

② シルバー基金の活用による新制度  
そこで鳥取県老人クラブ連合会では、老人クラブや会員の増加を図り、それぞれの老人クラブが活性化することを目的に、会員等からの拠出金で造成されたシルバー基金の果実（運用利息）を財源と

して今年度「老人クラブ活動活性化助成事業」を創設しました。

### ③ 助成制度の概要

1 市町村老連、支部老連、地区老連、単位クラブが次の①②③の活動を行った場合に各市町村老連、各支部老連につき、三事業のうち一事業について助成

- ① 健康づくり・介護予防活動
- ② 地域支え合い活動
- ③ 会員加入促進活動

### ※助成額

市町村老連三万円  
支部老連 一万円

2 新規加入会員が五人以上あった単位クラブ、新規にクラブ設置（三十人）された単位クラブに対し助成（市町村老連がとりまとめ）

- ① 新規加入会員 五千元
  - ② 新規クラブ設置 一万円
- 詳細は、鳥取県老人クラブ連合会事務局まで。



## いつでも、何歳でも...

### 老人クラブ傷害保険のご案内

平成22年10月1日  
始期以降改定

耳よりな  
お知らせ



新キャラクター「ぞう」君です。

## 手軽に傷害保険に加入できるのは、 老人クラブ会員の特典です。

最近、各保険会社で一般的に取り扱われている「個人契約の傷害保険」に、老人クラブ傷害保険並みの安価な保険料で新たに入ることが難しくなっています。

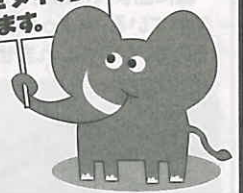
一方、老人クラブ傷害保険は、全国老人クラブ連合会が取りまとめ、一括して契約する「団体契約の傷害保険」のため、①比較的安価で、②年齢制限もなく、③一人でも加入できる、会員に有利な傷害保険となっています。

### ◆ 基本タイプ〈活動中補償〉老人クラブ活動中とその往復途上のケガを補償します。

年間掛金 (タイプ名)	補償内容	活動中のケガによる 死亡・後遺障害保険金額	活動中のケガによる 入院保険金日額(注)	活動中のケガによる 通院保険金日額
500円タイプ		50万円	1,000円	650円
1,000円タイプ		100万円	2,000円	1,300円
2,000円タイプ		200万円	4,000円	2,600円

(注) 手術保険金のお支払額は、手術の種類に応じて入院保険金日額の10倍、20倍または40倍となります。

活動中以外  
(24時間)の  
ケガも補償する  
「上乗せタイプ」も  
あります。



財団法人 全国老人クラブ連合会 保険係  
通話料無料のフリーダイヤル

0120-000937 受付時間 9:30~17:30  
(土、日、祝祭日休)

〈取扱代理店〉 有限会社 シニアサービス社 電話番号 03-3597-8768  
(引受幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社  
(担当課) 医療・福祉法人部 法人第二課  
電話番号 03-3515-4144

●この広告は老人クラブ傷害保険(老人クラブ団体傷害保険特約付帯普通傷害保険・普通傷害保険)の概要についてご紹介したものです。詳細は、「老人クラブ傷害保険の手引き」にはさみ込まれている「重要事項説明」をお読みください。ご不明な点等がありましたら、取扱代理店、引受保険会社までお問い合わせください。全老連保険係ホームページ(<http://www.senior-ltd.com/>)でもご確認ください。

平成二十二年度

### 厚生労働大臣表彰 受賞

鳥取県老ク連

副会長 武良 敬喜

十一月五日、日比谷公会堂におきまして、全国社会福祉大会が開催され、千名を越す参加者が参集しました。

受彰者団体は、厚生労働大臣表彰8団体、全国社会福祉協議会会長表彰5団体、中央共同募金会長表彰3団体です。

私は社会福祉事業関係団体功勞者47名の一人(老人クラブ関係では一人)として受彰しました。

平成七年五月以来、県老ク連理事として15年、同副会長として11年を勤めさせていただきました。その間県老ク連理事の方々はもとより、会員各位のご叱正や絶大なご援助をいただき、身に余る光榮に浴しましたこと、ここに深甚の謝意を申し上げ受章報告とさせていただきます。



### 全老連会長表彰 受賞者

全国老人クラブ大会

(宮城県仙台市)

平成22年11月16日・17日

【育成功労表彰】

前県老連副会長

豊嶋 潤 (倉吉市)

### 全老連活動賞 受賞団体

【仲間づくり活動部門】

・高尾秋葉会 (北栄町)

稲作を通じた地域での仲間づくり

・外江明生連合会 (境港市)

長年の活動をとおしての加入促進・仲間づくり

【ボランティア活動部門】

・浦富真砂会老人クラブ

(岩美町)

小学校ボランティア隊を結成し、子どもの見守りパトロール

### 会員章



●会員章には、ピン止式とタック式の二種類があります。

◎頒価 一個700円

### 編集後記

本広報紙は、今まで全会員の皆様方に配布して参りましたが、本号から単位クラブ毎とさせていただきます。編集方針も、活性化に向けて内容の濃い記事を優先して掲載することにいたします。

広報委員も改選されて、新しい感覚と決意で、高齢化社会の諸問題の解決のため挺身いたします。皆様方の熱情溢れるご意見、ご提言をお待ちいたしております。

(広報委員長 今岡祐一)

### 広報委員

委員長 今岡 祐一 (米子市)

副委員長 相見 寿子 (鳥取市)

委員 日下部武志 (岩美町)

委員 北野 昇 (琴浦町)

委員 川木 勢逸 (鳥取市)

委員 瀬山正八郎 (伯耆町)

委員 長石 三恵 事務局担当

発行 社団法人鳥取県老人クラブ連合会

〒689-0201 鳥取市伏野一七二九一五  
TEL08557159163351  
FAX08557159163345

緑に囲まれた山里で、ゆっくりと雲が流れている。ちょっと時間を忘れてみるのもいいかもしれませんね。



愛の村温泉 レストラン(常時)

体験農園 特産品販売

愛の村パーク  
ひがしあわくら AI no MURA PARK

岡山県美作市後山1872  
TEL0868-78-0202 FAX0868-78-0201

定休日：水曜日



天然温泉と展望露天風呂と月替わりの湯をお楽しみください。

泉質/単純温泉

交通アクセス ●智頭急行「大原駅」下車(車で約10分) ●国道429号線兵庫県との県境付近

この機関紙は共同募金の助成を受けています。

